

1 題材名 わたしたちのくらしと安全 ~防災都市作りについて考える~

2 題材について

(1) 【場面設定】: 「時事的な社会事象について、他者との差異や葛藤を感じる問題」を扱う内容

内閣府によると、30年以内にM7級の地震が70%の確率で起き、最悪の場合全壊・消失棟数61万棟のうち火災により約41万棟とされている。地域の人々の生命や財産をおびやかす火災から、安全を守るためにはどうすればよいのだろうか。文京区6丁目(豊島ヶ岡町会)を例に考えよう。

(2) 本題材と子どもたちとのかかわり

地域の人々の生命や財産をおびやかす火災、風水害、地震などの災害から人々の安全を守ることは、地域社会での安全な生活を保障するものであり、地域住民の強い願いに基づくものである。今回は、文京区役所と、防災訓練などを行っている町会が協力して平素から災害の防止に努めている事例を取り上げ、災害を未然に防ぐための取り組みを調べたり、今後の対策はどうすべきかを考えていきたい。

上述の今後起こる可能性が高いとされる首都直下地震や地震による火災に対してより効果的、集中的にまちづくりを推進するため、東京都は「防災都市作り推進計画」を策定した。それによると、大塚5丁目・6丁目は震災時の大きな被害が想定される、整備地域に指定されている。それを受け、文京区は大塚5丁目・6丁目を不燃化特区とし、「燃えない燃え広がらないまち」づくりを急いでいる。具体的には、不燃化立て替えを行った建築物に対して、除去費などの一部助成や、固定資産税・都市計画税の減免などを行っている。しかし、4m未満の道路に面した家を建て買える場合には、その分、セットバックして立てなくてはならない。また、助成金も上限310万円と決して大きな金額ではなく、まだまだ十分現在の家に住める方にとっては、立て替えの決断はなかなか難しいものがある。

子どもたちは大塚6丁目の豊島ヶ岡地区を見学し、まちの様子を調べている。新しい家が建てられていること、保育園があること、消防車が通れないような道があることなど地域の特徴をつかませた後、火災から被害を減らす取り組みとして、区による助成の例を紹介する。区による対策には、問題点はないか、広い視野で考えていきたい。

(3) 本題材で育てたい政治的リテラシー

○社会的事象や時事問題の対立点、論点や、それらの背景となる基本的事実を理解する。	・首都直下地震に対して「燃えない、燃え広がらないまち」を作っていくとする行政に対し、耐火性に強い建築物を作るには多額の費用が必要だという問題点があるなど、そこに住む住民の考えがあることがわかる。
○社会的事象や時事問題の対立点、論点について、多面的(他者の視点)な見方で考える。	・まちを作り替えるために様々な施策を考えている文京区の立場、その施策だけでは、十分でない住人の立場、広い視野で地域住民が被害に遭わないために尽力している町会長の立場に立って考える。
○読みとった情報・知識を、自分の主張の根拠にする。	・今後起こりうる首都直下地震について、どれくらいの被害が想定されているか、文京区の対策が具体的にどのようなものかを理解する。
○様々な立場の人が幸せになれる条件を考えて決定する	・不燃化立て替えの対策についてどのようにすればよいかを考える。 ・ハード面だけでなく、個人が防災意識を高める事も重要だということがわかる。

3 学習指導計画(全11時間/6時間目)

1時~3時: 大塚6丁目(豊島ヶ岡町会)の様子を地図で調べたり見学したりして、よいところや改善すべきところはどこかを考える。

4時~8時: 今後起こりうる首都直下地震について、どれくらいの被害が想定されているかを調べ、燃えない燃え広がらないまちにするためにはどうすればよいかを考える。

9時~11時: 様々な立場の主張を交流し、意見文を書く。

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい「燃えない、燃え広がらないまち」にするために文京区が提案している制度について考える。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 豊島ヶ岡町会の様子をふりかえる。 ・しずかで、きれいな家がたくさんあった。 ・道が狭いので、消防車が通ることができるといえるのだろうか。 ・避難する場所があるのだろうか。 2 火災を防ぐための文京区の助成制度について考える。 ・道を広くするためには、とてもよい制度だと思う。 ・建て替えたときに、自分の土地が狭くなってしまう。 ・この費用で、家を建て替えることができるのだろうか。	・ただ単に危険なまちと認識させるのではなく、昔からの由緒ある閑静な住宅街として人気で、新しい住居が建設されたり、保育園の児童数が多かったりとよいところにも目を向けさせる。 ・現時点での施策にも問題点があるということや、立場によって感じ方が違うということをおさえる。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

中学年で、社会論争問題を扱う際に、どのようなことを意識すればよいか。